

人生ハンド仏句

第71号
H.20.2.1
(毎月1日発行)

生活・行動の 中に法華経を

住職 谷川寛俊

新年を迎えるたびに、「今年こそ大いに張り切って頑張ろう！」しかしいつも事ながらお正月だけ元気で段々青菜の様にしおれていく、元旦のはりきりを一年中持ち続けられる精神力こそ大切であります。世の中は困難と災難で出来上がっています。それを怖がらなければ、案外人生は楽しいものかもしれません。年の初めに不吉な事を嫌い、目出度いことばかり並べ上げて縁起を祝うのは、実は腹の中で困難と災難を怖がっている証拠であります。一年中なるべく嫌なことに会わないようにおマジナイのつもりなのかも知れませんが、それよりも困難や災難を乗り越えてゆく、普段の心構えを真剣に養う事が大切なのではないのでしょうか。

人生は前の世からの続きですから、何が飛び出してくるか分かりません。一寸先は闇の世と言います。足元を照らす光を用意すれば心配はありません。

それには何事にも信心であり、お題目であります。それが足元の光であります。法華経には「菩薩を教える法」と経文に書かれています。(教菩薩法)

これは法華経を信仰する者は「菩薩」でなくてはいけないということです。菩薩というのは、自利利他の行をする人ですから、自分の利益を求めると同時に、他人(相手)の利益を求めてやるのが菩薩であります。いろんな菩薩像を見て下さい。冠をかぶり、首飾りもし、腕輪もして綺麗な衣をまとっています。

この姿は実は「自分同様、皆さんも綺麗に飾ってあげますヨ」と言っあらわれが、あの姿になっているのです。

仏教はとかく少欲・質素・死というような暗いイメージがありますが、私達の毎日の生活は「もつとお金が

編集・発行
玉蓮山 真成 寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyujitovama108/>

欲しい、美味しい物を食べたい、綺麗な服を着たい、もつと楽をしたい。」といった生活の豊かさを求めて頑張っているわけで、もしいろんな欲求を取り去ってしまったら、産業、文化の発展も生活の向上もありません。そんな一般大衆の思いと教えが、相反したものでは何の役にも立ちません。自分もいよいよ、相手もいよいよ。そういった菩薩(法華経)の考えのもとに行動を起こすことにより、経済、人間関係でもお互いに利益をもたらす、共存共栄(共に生き共に栄える)していく平和な明るい世界が出来上がっていくのです。これが法華経の目指す世界であり、菩薩がこの世に充滿し「成仏」という究極の幸せに向け活動する世界です。世間一般にいう成仏とは、亡くなった人の靈魂が何の憂いもなく、あの世にいたことだけをとらえているようですが、法華経の世界の成仏とは、生きていく私達が先ず、現世(現実の世界)において皆が手に手を取って精神的にも物質的にも、平和に幸せに暮らす事を目指すものです。

そしてそれには菩薩行と南無妙法蓮華経の信行を欠かさず、車の車輪のように実践していけば信仰の究極としての悦び「法悦」を感じることが出来るのです。心新たにお互い精進したいものです。

み仏のまなざしに感謝して 朝を迎え夕べを送る

あした